海外研修報告書～台湾～

スポーツ教育学科４年

私は、2 月 19 日～23 日に行われた 4 泊 5 日の海外研修（台湾）に参加した。初めての海外で緊張もあったが、海外研修（台湾）を終えて沢山の学びと経験を得ることができた。特に、日本の学校と台湾の学校を比較すると初めは同じように感じていたものが授業を実際に行い、観察するうちに教育現場の中心に違いがあると感じた。

Ⅰ．日本の教育と台湾の教育の違い

日本の児童･学生は学年が上がるにつれて発表すること（自己表現）が少なくなっている。その原因として、問題に答えがある、〇×がはっきりしていることや周りの人と比べて言動に敏感になってしまうことが挙げられる。そのため、「誰かが言ってくれるだろう。」、「誰かに言ってほしい。」というような授業の雰囲気を変えるためにも、日本の教育方法を変えていくべきであると感じていた。そのような、消極的な学びから積極的な学びに変えていく方法として、台湾の積極性を育むような教育方法は今後の指導の参考になると考えた。その台湾の教育方法は、教育現場の中心にいる人は子ども（児童・生徒）であり、小さなリーダーをつくって自然と他者に教えることが習慣化しているものであった。つまり、教えることが当たり前な環境にあることが日本との違いである。そのため、日本において急に生徒同士で教え合うことや、自己表現を習慣化することは、初めは難しいと考えるが、実態把握をしながら少しずつ自己表現しやすい手立てや授業展開を行えば、生徒に必要な積極性や責任感、自己表現をすることに繋がるのではないか。

さらに、小さなリーダーについては、責任感をもつということにも繋がるため授業だけではなく、日直や係、部活動において効果を発揮することができると考える。例えば、部活動では部長、副部長がおり、その他の学生は役割がない場合が多い。そのため、全員が役割を持ち、何を行うべきであるのか考えるように促していきたい。

Ⅱ．けん玉づくり

けん玉づくりでは、初めはコミュニケーションを取ることが難しかったが、見本を見せながら教えることで少しずつ会話をすることができ、完成させることができた。実際にけん玉に挑戦すると、苦戦する児童もいて、段々とできないことに対してマイナスな気持ちになっていたため、見本を見せながら教える方法から、手を掴んで一緒にけん玉に挑戦するという方法を行ってみた。一緒にけん玉に挑戦しボールがコップに入った瞬間、マイナスな気持ちであった子どもが嬉しそうに笑って喜びのハイタッチしたことが印象的で忘れられません。

このように、様々な困難に対して一つの方法では上手く行かず、様々な方法に挑戦して何とかできるようにさせたいという気持ちと手立てをつくることが大切であると学んだ。

Ⅲ．万華鏡づくり

担当した万華鏡づくりで学んだことは、材料集めや試作品づくり、中国語に翻訳した万華鏡のレシピ等で様々な視点から授業を計画することの大切さである。現地に行くまでは、生徒の実態が年齢と人数のみわかっている状況で、製作の内容についても難易度は生徒に合っているのか、製作ができる難易度であっても実際に教える場合、日本語では理解することが難しい状況でどのように教える必要があるのか何度も話し合った。また、事前の準備とし

て児童はハサミを使って紙を切ったり、貼ったりすることができるのか、時間配分に余裕はあるかなどを話し合いながら授業づくりをした。時間配分については、制作だけではなく、展開に繋げるための導入の時間や詰め込み過ぎて制作が完成しなかったということがないように、最低でも土台は完成させるまでは、それぞれのグループの学生に任せて手立てを考えるように促した。私の担当したグループでは、配慮を必要とする生徒がいる想定で事前に紙を切ることやテープで固定したりすることを行い、時間が限られている授業に遅れを取らないようにした。そして、飾りやデザインに力を入れるように工夫した。特に、美術を選択する美術クラスということで、土台が同じ万華鏡でも一人一人の個性を活かした万華鏡を作成することで生徒の得意を活かした授業を展開するとともに、他者との交流を含めて尊重する気持ちや他者の制作を鑑賞し、新たな発見を繋げることができるようにした。また、どれだけ様々な授業を想定しながら授業計画を立てていても物が無くなってしまうことや、制作のスピードに差ができてしまうこと、材料が使えなくなってしまうことがあるため、時間と材料には余裕を持つこと、そして、完璧に計画通りの授業を行うことはできないが、臨機応変に対応をすることの大切さを学んだ。

Ⅳ．参加した学生間の交流

今回海外研修に参加した学生と交流してみて、様々な学年・学部・学科の学生とともに研修に参加したが、初めましての人であってもたくさんの生徒と話すことができ、全員と関わることができた。研修で人との出会いがより楽しいと感じるようになった。私自身、スポーツ教育学科であったため体育やスポーツという視点で物事を考えていたが、他の幼児教育や初等教育、養護、心理のように様々な学科の生徒が集まることで、教育で大切な考え方や対人関係に関することを学び、実際に教育の現場で活用していきたいと感じた。

Ⅴ．現地で出会った人

台湾では、沢山の人に助けられた。日本では知らない人に声をかけるということは勇気のいることであると感じていたが、フレンドリーな人が多く人との出会いというものの楽しさを感じた。特に、2 つ目日目の足つぼマッサージでは、ベトナム出身の方と仲良くなり、言葉を教えてもらった。マッサージは、もちろん足の疲れを取っていただいたが、一生懸命言

葉の発音や口の動かし方を教えてもらい、コミュニケーションを取るということについても本当に楽しい時間となった。このことから、言葉が通じなくても伝えようとする気持ちと行動力があるだけで、こんなにも人との出会いは楽しくなるのかと実感した。

Ⅵ. 今後に活かしていきたいこと

今後の教育の現場では、生徒の可能性を引き出すために生徒だけではなく、教員も様々なこと挑戦することや自己表現を自然と行うことができるような環境づくりとして普段から生徒と関わること、「わかるだろう」という考え方ではなく、より細かく手立てを考えるように意識していきたい。なぜなら、「わかるだろう」という考え方では伝わらない、わからない状況が生まれてしまうからだ。わからない状況になってしまうと、教師と生徒の間に認識のずれが生じてしまい、生徒が授業や学びに対して興味を持つことができなくなってしまうため、常にわかりやすいように手立てをつくり、全員が授業に参加できるようにしていきたい。また、教員が教え、生徒が教わるという立場ではなく、全ての人が関わっていく中で学び合う、教え合うということを大切にして日々生徒が学びの中心であるように様々な個性であふれる生徒から学んでいきたい。そして、生徒の得意を活かした授業展開でより生徒自身に見通しを持たせること、教員が学級の雰囲気をつくるように、表情や言葉の伝え方などを意識して学級づくりや学校づくりに貢献していきたい。

Ⅶ. 最後に

海外研修に参加するにあたってお忙しい中、授業計画やスケジュールについての話し合いに協力してくださった先生方、引率をしてくださった先生方に感謝を申し上げます。そして、今回海外研修に参加する機会を設けていただいたことに感謝し、今回の研修で学んだことを活かして今後の教育に活かしていきます。また、生徒が学ぶことの楽しさを実感でき、様々なことに興味を持つなど一つの学びから広がっていくことや生徒が学校での学びが楽しかった、考えることが楽しくなったと思えるよう、実態把握では、何ができるかだけではなく、何ができそうか見通しを持てるように授業を計画していきます。本当にありがとうございました。